

東郷中だより

学力特集号

平成30年10月29日
北九州市立東郷中学校
校長 北谷 真司

平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語、数学、理科)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)
国語A	・32問中24問は全員が解答しており、無解答率については全国を上回っているものが多い。 ・書こうとする事柄のまとまりや順序を考えて文章を構成する力において、全国を上回っている。
国語B	・文章を書く問題に対して苦手意識があり、無解答率が高い。 ・文章とグラフとの関係を考えながら内容を捉える力に関して優れている。
数学A	・計算問題を苦手とする生徒が多い。 ・一次関数については、無解答率が0であり、正答率も全国を上回っている。
数学B	・全体を通して無解答率が高く、正答率が低い。 ・図形において、付加された条件の下で、新たな事柄を見だし、説明することを苦手とする。
理科	・光の反射の幾何学的な規則性についての知識・技能を活用する力、風向の観測方法や記録の仕方に関する知識・技能を活用できる力に優れている。

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
・家で、学校の宿題をしている生徒の割合は、91%で昨年度より上回り、全国平均ともほぼ同じ割合になった。 ・学校の授業時間以外に、月曜から金曜日に1日当たり60分以上勉強している生徒の割合は35%で昨年度を下回り、全国平均の71%をも下回った。 ・学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている生徒の割合は、59%で昨年度より上回ったが、全国平均の76%には及ばなかった。 ・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある生徒の割合は、62%で昨年度を上回り、全国平均の59%をも上回った。 ・自分には、よいところがあると思う生徒の割合は68%で昨年度を上回ったが、全国平均の79%には及ばなかった。 ・人の役に立つ人間になりたいと思う生徒の割合は、97%で昨年度を上回り、全国平均の95%をも上回った。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- ・少人数指導を通して、一人一人に応じたきめ細かな指導を行い、学習の成就感や達成感をもたせ、意欲の向上を図る。
- ・授業中の話し合い活動が定着してきたので、今後は話し合い活動の質を高め、一層深い学びができるようにする。
- ・「めあて」「まとめ」を自分の言葉で書き、授業の終わりには「振り返り」を行うことを習慣づける。
- ・朝自習を計画的に行い、定期的にまとめテストを実施し、達成感や意欲を高める。
- ・どの教科においても思考力・判断力・表現力を高めるために、感想文や作文を書く機会を増やす。
- ・各教科で試験前に教員が「できるかもプリント」を作成し、生徒の意欲を喚起し、達成感をもたせる。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・得意不得意にかかわらず、誰もが一人でできる宿題を与える。
- ・東郷ノートを一層活用し、生徒の自学自習の習慣づけをする。
- ・各教科で、週末課題の提出を徹底させるとともに内容を充実させ、生徒の基礎・基本の定着につなげる。
- ・試験前は、各教科で生徒に予想問題を作成させ、教員は必ず予想問題の中から試験問題を出題し、生徒に達成感をもたせるようにする。
- ・各教科の「できるかもプリント」を「する」「しない」の選択は、生徒の自主性と判断に任せ、自由に入手できるようにする。